研究・調査報告書

報告書番号	担当
４００	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門

題名（原題／訳）

Recurrent traumatic brain injury is predicted by the index injury occurring under the influence of alcohol.

飲酒者の頭部外傷の再発は予見できるか

執筆者

Winqvist S, Luukinen H, Jokelainen J, Lehtilahti M, Näyhä S, Hillbom M.

掲載誌（番号又は発行年月日）

Brain Inj. 2008 Sep;22(10):780-5.

キーワード

再発頭部外傷、飲酒、青年、少年

要　旨

背景：
頭部外傷の再発のリスクファクターとしてアルコール中毒の役割はあまり知られていない。この研究はこの問題を調べるための地域集団を対象とする縦断研究である。

方法：
レコードリンケージ技術を用い、フィンランド退院記録・通院記録・1966年北フィンランドバースコホート12,058名の家族特性に関する質問紙からデータを得た。12歳までの頭部外傷は除いた。

結果：
1978から2000年までの追跡期間に236名が初回頭部外傷（主に軽度）を乗り切り、21名が再発、3名が2回再発した。アルコール関連初回外傷(相対リスク4.41,95%信頼区1.53-12.70)と都市部で出生すること(相対リスク4.39,95%信頼区1.68-11.48)が有意な頭部外傷再発の予測因子であった。アルコールが関わった頭部外傷の初回と再発の関係に正の有為な関係を認めた。

結論：
飲酒が関係している初回の頭部外傷は、（しばしばアルコールが関わっている）再発の予見因子である。再発のリスクは初回頭部外傷の数年後にも見られる。再発を防ぐためにはアルコールが関与した初回の頭部外傷を見極める努力をする必要がある。飲酒習慣に焦点を当てた短期介入が速効性のある予防法として必要である。